



ニュージーランド地方自治体管理者協会 2025 年次会合 ～ニュージーランドの事例から学ぶ～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 中谷 文哉 (宮城県栗原市派遣)

ニュージーランド地方自治体管理者協会 「Taituarā」

Taituarā (タイトゥアラ) とは、ニュージーランド (NZ) の地方自治体の管理職や政策実施に携わる職員を支援する組織で、正式名称は「Taituarā — Local Government Professionals Aotearoa」です。1988年に設立されたニュージーランド地方自治体管理者協会 (SOLGM: The New Zealand Society of Local Government Managers) が、組織の理念や目的をより明確に表現するため、2021年にNZの先住民族マオリの言語であるマオリ語で「背骨」を意味する「Taituarā」へ名称を変更しました。

Taituarā は、NZの地方自治体職員が最大限の能力を発揮できるようになることを目的に、自治体職員の知識・スキル・リーダーシップを向上させるための支援を行っています。具体的には、リーダーシップ育成プログラム、オンライン学習、全国的な交流機会の提供、政策フォーラムの開催など、実務的かつ戦略的な人材育成とネットワーク構築を推進しています。そして、年に一度、年次会合を開催し、最新の事例や政策動向の共有のほか、NZ全土から集まる自治体関係者によるネットワーク構築の機会となっています。

シドニー事務所は、9月4日から5日に開催された本年の年次会合に出席し、NZの地方自治体の最新の事例や課題について学ぶとともに、自治体関係者とのネットワーク構築を図りました。

今年の年次会合のテーマおよびプログラム

本年は、「Impact Unleashed」をテーマに、地域社会に継続的で前向きな影響・変化をどのように与えられるのかということに焦点を当て、5つの基調講演と6つ

の具体的なテーマの講演が行われました。基調講演では、経済、IT、ガバナンスなどの各専門家が、地方自治体が地域社会で影響力を強化するための知見や変革を促す考え方が紹介されていました。

テーマごとの講演では、NZの地方自治体が直面している、気候変動、文化振興、デジタル化、地域住民との関係強化などの多様な課題に対して、革新的な解決策を見出し、地域社会に良い影響を与えた先進事例が取り上げられていました。

今回聴講した、気候変動適応に関する「Environmental Impact」と、地域社会との協働に関する「Community Engagement Impact」という2つのテーマの講演について、その講演の概要と、日本の自治体の参考になり得る事例についてご紹介します。



会場の The Christchurch Town Hall

ポジティブな視点から取り組む重要性

「Environmental Impact」の講演では、2015年に大規模な被害をもたらした洪水災害を契機に、ダニーデン市がサウスダニーデン地域の気候変動適応にどのように取り組んだのかが紹介されました。

この取り組みの特に興味深い点は、「気候変動への適応という避けがたい現実」を悲観的に捉えるのではなく、「より良い都市再生」という希望に満ちた機会と捉え、前向きな姿勢で地域住民や多様なステークホルダーと協働している点でした。このように物事の捉え方を転換することで、人々が課題を認識して行動し、未来を協働して築くための心理的な基盤が構築されたことにより、一見受け入れがたいような変化であっても、許容し、未来

に向けて進み続けることが可能となりました。

このように、直面している課題や脅威をネガティブに捉えるのではなく、ポジティブな機会として捉える視点は、災害対応以外の場面も含め、政策や事業を推進する上で極めて重要と考えられます。

この取り組みは、2100年の未来像を描きながら現在も進展しているため、将来にわたって関心を持ち続けたいと思っています。

なお、洪水対策への取り組み自体も非常に示唆に富む内容でした。詳細については、下記のホームページの報告書をご覧ください。

<取り組みの詳細>

<https://www.dunedin.govt.nz/council/council-projects/south-dunedin-future>

地域の図書館とペットセラピーで育まれる子どもの自信

「Community Engagement Impact」の講演では、地域協働の優れた実践事例として、ネイピア市の取り組みが紹介されました。

この取り組みは、市の「図書館」がペットセラピーの「ボランティア団体」と協働して、「子ども」たちに犬への本の読み聞かせを行う場を提供するというものです。犬は批評や誤りの指摘を行わないため、子どもたちは緊張せずに安心した状態で読書の練習ができます。

この取り組みが優れた事例とされたのは、それぞれの関係者に以下のようなメリットがある取り組みとなっており、まさに日本で言う「三方良し」の精神が体现されていることに加え、周辺地域の他の図書館が同様の取り組みをする契機となったためです。

○それぞれのメリット

- 図書館：利用者層の拡大と多様化、コミュニティハブとしての活性化
- ボランティア団体：活動機会の創出、団体の認知度向上と社会貢献
- 子ども：英語の読み書きへの自信育成、読書意欲と識字能力の向上

当初は、子どもたちの集中力の欠如、参加者やボランティアの不足などの課題に直面しましたが、スタンプカードの導入で子どもの読書への動機付けを行ったり、参加予定者へのリマインドメールを導入したり、ボラン

ティア間の連絡方法を改善したりと、1つずつ課題を解決し、現在は、各回で定員に達し、待機者が生まれるほどになっているそうです。

2023年から現在まで継続して取り組みが実施されているほか、周辺地域の他の図書館にも取り組みが波及し、よい連鎖が生まれているところに感銘を受けました。

<取り組みの詳細>

<https://www.napierlibrary.co.nz/whats-on/childrens-activities/reading-to-dogs/>

学びと展望

本会合では、自治体およびその職員が地域社会や住民に対してどのように影響を与えることができるのか、また、なぜその影響力が重要であるのかについて、具体的な事例や行政以外の視点を交えた講演を通じて学ぶことができ、大変有意義な機会となりました。特に、課題を否定的・消極的に捉えるのではなく、前向きかつ建設的な姿勢で取り組むことの大切さは、あらゆる業務や対応において重要な視点であると改めて実感しました。

今回得た学びを今後の業務に生かし、まずは私自身が所属組織に良い影響を与えられる存在となることを目指すとともに、最終的にはその影響を地域社会や住民の皆さまにも広げていけるよう、引き続き努めてまいります。

【参考】

- Taituarā
https://taituara.org.nz/Story?Action=View&Story_id=264
<https://taituara.org.nz/who-we-are>
<https://taituara.org.nz/leadershipprogrammes>



子どもの動機付けのためのスタンプカード



ダニーデン市とネイピア市 (筆者作成)



クレアシドニー事務所職員が意見交換する様子